



2026 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ

ROUND 6

SUPERBIKE RACE in OKAYAMA



■ 岡山県
■ 岡山国際サーキット
■ 1周=3.747km

■ クラス / JSB1000
■ マシン / BMW M1000RR
■ タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 **44** 関口 太郎

予選

15位

(タイム: 1分50秒866)

9月26日(土)

天候: 雨
コース: ウエット

決勝

12位

9月27日(日)

天候: 雨
コース: ウエット



三明電気工事



2026年シーズンも岡山ラウンドを含め、早くも残り2戦となった全日本ロードレース選手権。今回はJSB1000クラスも1レース制。前週に事前公開テストが行われたが、SANMEI T.TARO PLUSONE with SDGは、チームの諸事情で参加を見合わせ、レースウィークからの走り始めとなっていた。



しかし、土曜日の公式予選は、雨に見舞われウェットコンディションでのタイムアタックとなった。この時点で日曜日はくもりでドライになる可能性が高いと言われていたこともあり、予選はフィーリングがよくなかったが、大きくセットを変更することなく“耐えの走り”で15番手となった。

J-GP3クラスの決勝が終わるころから雨が降り始め、路面はウェットコンディションに。ウェット宣言も出されたため、レース周回数は、3周減算され21周で争われた。シグナルがブラックアウトし決勝のスタートが切られる。関口は、慎重に1コーナー、そしてモーターサイクルシケインをクリア。オープニングラップは15番手で終えるが、接地



感がなく、思うようにペースを上げられずにいた。2周目に1台にかわされ、その後は西村選手とのバトルとなっていく。同じく苦しい走りとなっている西村選手のテールをマークし周回を重ね、15周目の最終コーナー進入でインを突き前に出るも単独走行となっていく。前方で転倒もあり、ポジションを上げ12位でチェッカーフラッグを受けた。

雨の岡山に大苦戦も12位でチェッカー！

初日となった金曜日は、ドライコンディション。今年のマシンで岡山を走るのは、初めてとなるため、まずはユーズドタイヤでセットを確認しながら周回していく。2本目には、さらにセッティングを詰め、セッション最後にニュータイヤを履いて1分32秒902をマークして11番手。事前テストに参加していないことを考えれば、まずまずのタイム、ポジションにつけた。



日曜日になると、午後から雨が降ってくる予報が変わっていた。朝のウォームアップ走行は、ドライの走行となり、フィーリングはまずまずで12番手につけていたのだが…。



いつも応援ありがとうございます。ドライでは、事前テストを走っていないわりには、いいフィーリングでしたし、タイムもまずまずでしたが、岡山のウェットは、本当に難しいですね。今思えば、予選でもっとセットを振った方がよかったかもしれません。レースでも序盤はペースをつかめなかったですし、耐えのレースになりましたが、しっかりポイントを獲得したのでよしとしておきます。次戦は、早くも最終戦鈴鹿になります。気持ちを切り替えて、今シーズンを締めくくるいいレースにできるように、しっかり準備していきます。

関口 太郎

